

J R 四国労組ニュース

2023年1月5日（N.16） 発行責任者／大谷 清 編集責任者／石川 敏也

キハ40-2108号からの塗油輪の落失について

12月15日に徳島運転所にて出区点検中の368D（キハ40-2108号）の「塗油輪」が落失していたという事象が判明した。

本部はこの事象に対し、発第54号『「40-2108号からの塗油輪の落失」について』申し入れを行い、会社より以下のとおり回答があった。

1 今回の事象をどのように受け止めているのか会社の考え方を明らかにされたい。

12月15日（木）、徳島運転所構内で第368D列車の出区点検中にキハ40-2108号の1位塗油輪がなくなっていることが分かりました。当該部品については、現在捜索中ですが、本件事象に関して幸いにも負傷者はなく、列車の運行やお客様の安全にも影響はありませんでしたが、車両部品の落失は、沿線住民の方々や線路沿いで作業に携わる作業者の人命にかかわりかねない重大な事象であり、決して発生させてはいけないことであると重く受け止めています。

2 塗油輪が落失した原因を明らかにされたい。

本件事象を受けて、直ちに高德線・鳴門線の列車添乗による捜索と、高德線板野～徳島間、鳴門線の徒歩巡回による捜索を行いました。当該部品は発見出来ておらず落失場所も特定出来ておりません。また、定期的に徒歩巡回を行う保線部門にも情報提供し、捜索の協力を求めています。

塗油輪が落失した原因ですが、当該車両は動物などの外的な物体と衝突した記録はなく、当該車両の塗油輪の周辺を重点的に点検しましたが、何らかの物体と衝突した形跡もありませんでした。落失の原因が塗油輪の取付ボルトの緩みや折損である場合、こすれて擦り傷や飛散油が付着することが考えられますが、その影響で落失した場合に残るとされる損傷はなく飛散油も車両に付着していませんでした。

仕業検査は12月11日に行っており、異常はありませんでした。また、その後の出区点検でも乗務員は塗油輪付近に違和感を感じておらず、落失の原因は特定出来ておりません。

3 再発防止と今後の対策について明らかにされたい。

今回の事象を受け、塗油輪を取り付けているキハ40、キハ47、キハ32、キハ54については一斉点検を行い、不具合が無いことを確認しました。また、落失原因は特定出来ておりませんが、塗油輪が2本のボルトで取り付けられていることから、ボルトの緩みを防止する回り止めを施工する対策を行います。

幸い、この事象によるお客様への被害はなかったが、列車からの部品等の落失は、一歩間違えれば重大事故に繋がりがねない事象であり、絶対に発生させてはならない。

J R四国労組は、安全・安定輸送の確立がすべてに優先し、尊い命を預かる私たちの重大な使命であることを強く訴えるとともに、引き続き会社に対する「安全へのチェック機能」強化の運動を展開する。

以上